

(北条)金沢貞顕 わずか10日間の鎌倉幕府執権。好学にして和漢の書多数を収集、筆写して金沢文庫を完成させた。

かねさわさだあき
元が交易許可1278 =

武蔵国久良岐郡六浦荘金沢郷で、(北条)金沢顕時の子に生まれる。母は安達泰盛の女。

元寇弘安の役1281 = 3歳 :

北条時宗没・1284 = 6歳 :

霜月騒動・・・1285 = 7歳 : 霜月騒動に際し、乳母の夫富谷左衛門入道に庇護される。

・・・・・・1287 = 9歳 :

平禅門の乱・1293 = 15歳 : 平禅門の乱後、父顕時が鎌倉政界に復帰。

・・・・・・1294 = 16歳 : 左衛門尉、東二条院藏人。

・・・・・・1296 = 18歳 : 従五位下。右近将監を経て、左近将監。

末流だった金沢氏を幕府重臣に昇格させた祖父実時が創建した称名寺と金沢館に構えた保存用文庫(金沢文庫)の整備充実を図るべく、

・・・・・・1300 = 22歳 : 従五位上。

後二条天皇・1301 = 23歳 : 父が死去して家督を相続し、

・・・・・・1302 = 24歳 : 中務大輔。*六波羅探題南方になって上洛すると、明経道本家清原氏から伝授を受け、収書に努め、

・・・・・・1304 = 26歳 : 越後守。称名寺の長老審海が死去。

・・・・・・1305 = 27歳 : 嘉元の乱で、義父北条時村が誅殺される。瀬戸と金沢を結ぶ瀬戸橋をかける。

・・・・・・1306 = 28歳 : 「侍中群要」全10巻を書写校合。

・・・・・・1307 = 29歳 : 正五位下。

將軍追放交替1308 = 30歳 : この年、吉田兼好が金沢より帰洛。劔阿が称名寺二世長老に就任。六波羅を辞し、

・・・・・・1309 = 31歳 : 帰東。引付頭人になり、寄合衆に加わる。北条高時の元服を喜ぶ。

・・・・・・1310 = 32歳 : 右馬頭。六波羅探題北方として再上洛。

・・・・・・1311 = 33歳 : 武蔵守に転ず。このころ伊勢守護。

・・・・・・1313 = 35歳 : 六波羅を辞し、帰東。

・・・・・・1314 = 36歳 :

・・・・・・1315 = 37歳 : この年、鎌倉大火で政所・問注所等の幕府施設が焼失。*連署となる。

北条高時執政1316 = 38歳 : 従四位下。

文保御和談・1317 = 39歳 : 文保の御和談に上洛する摂津親璽を慰勞する茶会開催。称名寺の伽藍造営工事に着手。

後醍醐天皇・1318 = 40歳 :

・・・・・・1319 = 41歳 : 従四位上。兄顕弁が別当になった園城寺に対する延暦寺強訴恐れた天皇から金堂破却命、実行させるも、延暦寺の焼討止められなかった六波羅探題が面目失う事態に。

この間、病弱な執権北条高時を氣遣い、その病状に一喜一憂しながら、高時の後見長崎高綱・高資父子と連携して、鎌倉幕府最後の安定を主導するも、穏やかさ優先で異端児後醍醐天皇を厳しく処断できず、

・・・・・・1322 = 44歳 : 兄顕弁が鶴岡八幡宮社務になる。修理権大夫。

・・・・・・1323 = 45歳 : *称名寺の伽藍と浄土式庭園が完成し、結界作法が行われる。

北条分家執権1326 = 48歳 : この頃、志摩守護。寄合衆。*高綱に説得されて、執権になるが、得宗高時の弟泰家の反対により、十日後に辞任して出家(嘉暦の騒動)。

・・・・・・1327 = 49歳 : 兄顕弁が園城寺長史になる。

・・・・・・1328 = 50歳 : 嘉暦の皇位継承問題に続き、

疎石円覚寺・1329 = 51歳 : 政所執事二階堂行貞が急死して、幕府の混乱に拍車がかかり、

元弘の乱・1331 = 53歳 : 兄顕弁が死去。何とか元弘の変を乗り越えるものの、幕府の権威は完全に失墜、

・・・・・・1332 = 54歳 : 伊勢国守護所が襲撃され、

鎌倉幕府滅亡1333 = 55歳 : 孫敦時が伊勢に派遣される。幕府崩壊、父顕時の三三回忌に当り、故人の書状等を渡さ直し、「円覚経」を写経後、北条高時とともに、自刃した。